

農家人口の構成が大きく変化する可能性

コーホート分析からみる10年後の山口県農業の姿

2010年農林業センサスでは、本県の農業就業人口の平均年齢は70.3歳で、5年前に比べて3.2歳高齢化が進み、全国で2番目に高い状況にあります。若年層の減少と高齢化により農家人口の構成が大きく変換することが予想されることから、コーホート分析により10年後の農家人口予測を行い、山口県農業の姿を推測しました。

第1表 山口県の農家人口予測

単位(人、%)

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年
農家人口	104,591 (163)	80,957 (126)	64,086 (100)	48,568 (76)	35,546 (55)	25,403 (40)
増減率		▲ 29.2	▲ 26.3	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 39.0
男	52,580	41,026	32,851	25,218	18,750	13,631
女	52,011	39,931	31,235	23,350	16,796	11,772
～64歳	63,213	44,996	33,490	22,241	13,933	8,857
65歳以上	41,378	35,961	30,596	26,327	21,613	16,546
農家人口割合	6.8	5.4	4.4	3.5	2.7	2.1

資料：農林業センサスによる

注)農家人口は販売農家の項における年齢別農業従事者数

本県の農家人口増減率は、00年から05年の間で▲29.2%、05年から10年で▲26.3%となり、2010年の農家人口は64,000人台となっています。

このような変化をもとに推計しますと、農家人口は15年が48,000人台、20年が35,000人台、25年には25,000人台となり、5年後には7割強、10年後には約5割、15年後には4割の水準となり、急速な減少が予想されるとともに、65歳以上の割合が急速に高まってきます。

このため農業振興や、未来に引き継ぐ県土を適切に管理するためには、現在進めております集落営農の法人化はもとより、非農家も含めた地域の生活者の力を結集した取組を進めていくことが喫緊の課題となってきます。

※コーホート分析とは：人口を5歳きざみの階層に区分し、各階層ごとの人口残存率を求めて将来の人口予測を行う分析手法のことをいいます。

<主な内容>

『コーホート分析からみる10年後の山口県農業の姿』

～経営技術研究室～

◇各部の取り組み

『日本海で急増したサワラ（サゴシ）の加工技術』

～食品加工研究室～

『針葉樹皮を活用したブルーベリーへの培地栽培技術』

～農業技術部園芸作物研究室～

『イチゴのナメクジは秋1回の防除で防げます』

～農業技術部資源循環研究室～

『飼料作物品種比較試験（奨励品種改訂を含む）』

～畜産技術部放牧環境研究室～

『利用者に配慮した海岸林の整備手法』

～林業技術部林業研究室～

『山口県立農業大学校（農業研修部）の紹介と学生募集』

～農業研修部（農業大学校）～

日本海で急増したサワラ（サゴシ）の加工技術

日本海で平成12年以降に急増した、小型のサワラ（サゴシ）を有効利用するための加工技術を開発しました。

サゴシの揚げかまぼこ及び板付きかまぼこ向けに適した”すり身”を製造するための水晒しの条件は、前者では水晒し1回、後者ではアルカリカルシウム晒し1回とこれに続く冷水晒し5回であることが判りました。

また、このすり身への加水量は、それぞれ40%、20%まで可能であることや、揚げかまぼこへのサゴシ残渣エキスなどの添加割合は、2.5%程度が適当なことも判りました。

さらに、共同で研究した国や他県の研究機関の成果をまとめて「サワラ加工マニュアル」を作成し、水産加工業者などに配布したところです。

春を告げる魚として知られている従来のサワラ（漢字で「鱈」）と様相を異にし、9、10月に漁獲量が最も多い日本海西部（山口県～石川県）のサゴシが有効に活用され、水産業の振興や関係地域の活性化につながることを期待しています。

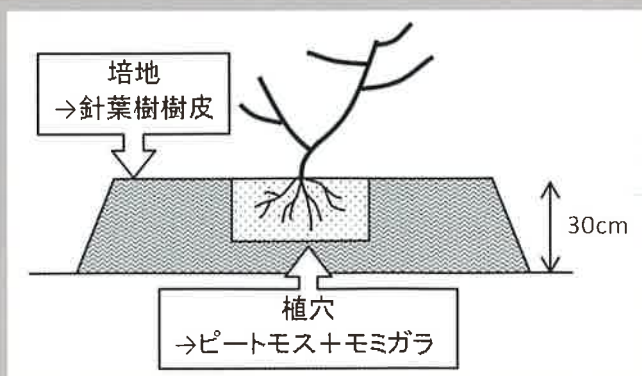


針葉樹樹皮を活用したブルーベリーの培地栽培技術

ブルーベリーは、通気性・保水性が良い酸性土壌を好むため、定植前に大がかりな土壌改良が必要となります。そこでセンターでは、土壌改良をせずに樹皮を活用してブルーベリーを安定生産する技術を開発しました。

本栽培法では、スギ、ヒノキなど針葉樹の樹皮を30cmの厚さで敷き、そこに植穴を掘り、ピートモスとモミガラを等量ずつ混合した資材40リットルを入れてブルーベリーを定植します。樹皮の保水性が高いため、定植2年目以降はほぼ無灌水で栽培可能です。また、定植後も樹皮が酸性を保つため、酸度調整の必要もありません。

当センターでの試験栽培では、従来の栽培方法と比較して定植4年目までの合計収穫量が2倍以上になるという成果が出ています。この栽培法により、土壌条件に関係なくブルーベリーの栽培が可能になることから、水田転換園など、本来ブルーベリーの栽培に適さない土地における安定生産技術として、今後普及を図ります。



イチゴのナメクジは秋1回の防除で防げます！

農業技術部では、IPM（総合的病害虫・雑草管理）技術の開発と普及に取り組んでいます。県内のイチゴ産地で、病害虫についてアンケート調査を実施したところ、ナメクジに困っている人が多くありました。そこで、トラップを使ってナメクジの活動を調査したところ、施設外では10月まであまり活動しないこと、施設内では9月中旬以降に活動するものの、高設栽培のイチゴまで到達するのは11月以降であることがわかりました。

ナメクジの産卵は12月～5月に行われるため、産卵前（10月下旬頃）に、施設内外の地表面にナメクジ用の殺虫剤（メタアルデヒド粒剤等：100㎡あたり100g）を1回散布することによって、翌春のナメクジ被害を防ぐことができます。

なお、再侵入を防ぐため、発生源となる落葉などは予め施設周辺から撤去してください。



イチゴ高設栽培



ナメクジ用のトラップ



ナメクジ

飼料作物品種比較試験（奨励品種改訂を含む）

畜産技術部と農業技術部では、飼料作物のうちイタリアンライグラス、ソルガム類及び飼料用水稻(WCS用、飼料用米用)について、毎年様々な品種を栽培し、栽培特性や収量特性等の品種比較を行っています。

その結果、収量成績が安定して良好であったり、倒伏しにくい等の優れた栽培特性を持った品種については、山口県における有望品種と判断され、山口県飼料作物奨励品種候補となります。

このたび8年ぶりに山口県飼料作物奨励品種が改定され、23草種75品種が選定されました。

主な改訂内容は、イタリアンライグラスが7品種、ソルガム類が6品種追加されたほか、WCS用の「たちすずか」や、飼料用米として「北陸193号」が新たに選定されたこと等です。

このように奨励品種の選択肢が拡大されたことにより、飼料作物生産現場において積極的に多収品種が栽培され、単収向上につながることを期待されます。



改定された山口県飼料作物奨励品種の一覧や特性については、農林総合技術センター、各農林事務所畜産部、農林水産部畜産振興課におたずねください。

利用者に配慮した海岸林の整備手法

宇部市西岐波の白土海岸には、かつては立派なクロマツ林がありました。しかし現在は、マツ枯れによって多くが枯死してしまったことから、クロマツ林を再生したいという地域の強い要望があり、これを受けた県ではやまぐち森林づくり県民税を活用してクロマツ植栽を計画しました。

海岸に植栽する場合は潮風で苗木が枯れないように、植栽地を防風柵でぐるりと取り囲むのが普通ですが、白土海岸は海水浴や散策などの利用者が多いため、通行を妨げない手法が求められていました。そこで林業技術部では、クロマツ苗木1本ずつに単木防風柵を設置し、柵間は通れる工法を考案しました。

現在、白土海岸では単木防風柵に守られたクロマツが順調に生長しており、柵の高さを超えるものも出てきました。このまま順調に生長し、かつてのようなクロマツ林が蘇ることを期待し、今後も調査を続けていく予定です。



白土海岸



単木防風柵とクロマツ

芽をのぼそう あなたの農力 ～山口県立農業大学校（農業研修部）学生募集～

農業大学校は、「身をもって学ぶ実践教育」、「全寮制教育」、「プロジェクト学修体系」の柱のもと、農業に取り組もうとするあなたの夢を応援する学校です。

防府市の大平山の裾野に広がる広大な農地を使って、園芸学科（野菜・花き・果樹の3コース）と畜産学科（酪農・肉用牛の2コース）に1年生29名、2年生20名の学生が在籍し、農業のプロを目指して頑張っています！

23年度の卒業生は5割が就農し、なかでも近年は農業法人への就業者が増えています。25年度学生を下表のとおり募集します。

また、10月28日（日）にオープンキャンパスを実施しますのでお気軽にご参加ください。



区 分	願書受付期間	農林事務所 願書締切日	入学試験日
推 薦 入 試	9月14日～ 10月5日	9月28日	10月22日
一般入試	一次募集 11月2日～ 11月22日	11月16日	12月5日
	二次募集 1月7日～ 2月8日	2月1日	2月20日

学校教育法に基づく専修学校であり、卒業生は「専門士」の称号が与えられ、「短大2卒」の学歴扱いとなります。

【お問合せ先】山口県立農業大学校 教務課 TEL(0835)38-0510

詳しくはインターネットでこちらから

山口県立農業大学校

検索

<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-7011 FAX(083)927-4386

URL http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。